

(英語版)

(アラビア語版)

令和四年四月

SF小説：「新・ナクバの東」(十二)

第一部：「イスラエル、イラン核施設を空爆す」

十一・サウジアラビアの秘かな動き(上)



基地のモスクで金曜の夜明けの礼拝を済ませた司令官トルキ王子は近くの荒野で鷹狩を楽しんでいた。ハファル・アル・バテン基地はイラクとの国境近く、ネフド砂漠の北端に位置している。砂漠の荒野にも野兔や渡り鳥など鷹の獲物は多い。鷹狩はトルキ王子のよきなサウド家の王族たちのたしなみでもある。

夏の盛りとは言え早朝の砂漠はひんやりと風も心地よい。北の隣国イラクを独裁者フセイン大統領が支配していた時代、この空軍基地は緊張した日々の連続であった。しかしフセインが倒れてイラク国内の混乱が始まってからは、イスラムゲリラや、酒・麻薬などの密輸業者がイラクから侵入することを防ぐことが国境警備の主要業務となった。しかしこれらの保安業務は地上の砂漠地帯の保安を担当する国境警備隊の仕事である。空軍の出番は全くない。そのためトルキ司令官は普段から暇を持って余しており、鷹狩りは暇つぶしと  
言う訳である。つい今し方までは……。

突然王子の白くゆったりした民族衣装の右のポケットからコーランの一節が流れ出した。スマートフォン呼び出し音だ。左のポケットにももう一台あるが、今鳴り出したのは軍及び内務省幹部専用の携帯電話である。軍及び内務省幹部と言ってもここサウジアラビアでは大臣以下殆どがサウド家の王子で占められている。しかも彼らは一族の中でも特に血

のつながりが濃い王子たちである。例えば国防大臣がトルキ司令官の父親であるように。

「ああ、父上、何かあったのですか？」王子は育ちの良さそのままの明るく屈託のない声で電話に答えた。電話の相手が国防大臣と知った部下達の顔に一瞬緊張が走る。国防大臣は初代国王の15番目の息子であり、また先代国王の実弟でもある。初代国王は多数の王妃を娶り30数人の息子をもうけたが、彼の死後はその息子達がほぼ年齢順に王位を継承している。国防大臣の母親はトルキ王子の父親を含め七人の息子を生んだが、彼ら七人兄弟は結束を固め他の異母兄弟と張り合ってきた。特に長兄が国王として長期政権を確立する過程で弟達を政府の要職に引き上げた結果、彼ら七人兄弟はサウド家の中で確固たる地位を築き上げたのである。

(続く)

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

[Arehakazuya1@gmail.com](mailto:Arehakazuya1@gmail.com)